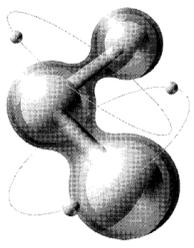


月面開発フォーラム

NIKKANKOGYO MOON PRESS - in AXIA EXPO



モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は10月5日、愛知県常滑市で開催した展示会「Smart City Park from AXIA EXPO」内で「月面開発フォーラム NIKKAN KOGYO MOON PRESS in AXIA EXPO」を開いた。2024年6月に同市で開催する「次世代型スマートシティ」の推進をテーマとした「AXIA EXPO2024」の開催前イベントとして、月面探査や宇宙ビジネスなどに挑戦する6社・団体の関係者が講演した。「宇宙産業」分野での先進的な取り組みに注目が集まった。



モノづくり日本会議
モノづくりへの挑戦

衛星関連製品で宇宙探査に貢献



コーンズ テクノロジー 特機部 鈴木 雄大氏

ラインアップ充実目指す

コーンズグループは高級車の販売代理店に加え、エアパレル、キッチン・ライフスタイルグッズなどを取り扱っている。コーンズテクノロジーは防衛・航空宇宙、自動車、セキュリティなどに関する製品を販売している。

宇宙産業では汎用アンテナのグループ傘下のサブリンクス・システムズ、サイレンクス、Sensoroの製品を取り扱う。サブリンクス・システムズは衛星追跡地上高、サイレンクスは衛星用通信モジュール、Sensoroは衛星用通信モジュールの姿勢制御用のジャイロセンサーを得意とする。サブリンクス・システムズは衛星探査向けセンサーモジュールなどをそろえる。いずれはコーンズに頼れば衛星部品が全部そろえられるようにしていきたい。

月面開発を見据えた地球低軌道上実証へのアプローチ



Elevation Space COO 宮丸 和成氏

宇宙で実証・実験サービス

当社は東北大学発宇宙スタートアップである。異業種からの宇宙ビジネス参入が注目を集めているが、宇宙ビジネスを取り巻く「追い風」と、向かい風「追い風」は民生品が宇宙開発に求められていること。民間事業者の宇宙や、国が民間事業者の宇宙参入を後押ししていることだ。日本政府は宇宙基本計画の中で「宇宙機器と宇宙ソリューションを合わせた市場規模を2030年代早期に、20年の倍にあたる8兆円に拡大する」という目標を掲げている。民間事業者に関する言葉として、商業化に向けた開発支援などについて触れている。ただ、宇宙

国際航空宇宙部品 SPACEAGENT



縁舞・SPACE AGENT CEO 鷹尾 伸一氏

自社技術高め新分野に挑戦

縁舞は金型・部品加工の技術メーカーで、1000分の5などの細かい公差の部品加工を手がけている。現在は金属加工、樹脂加工、3Dプリンター、射出成形、切削加工にも取り組んでいる。旋盤加工やレーザービーム溶接などを事業加工などを行っている。ダイモン(東京)都大田区)の月面探査車「YAOKI」の部品も納品している。

宇宙ビジネスの実践コミュニティ



ABLAb 代表理事 伊藤 真之氏

全産業が宇宙で横展開

ABLAbは宇宙ビジネスの実践コミュニティ。宇宙を志す人や企業が集まり、事業創出に向けて活動する場を提供している。地球上のすべての業界を宇宙産業に巻き込むことをビジョンとして掲げている。

「そうした未来は私たちが頑張らなくても確実に来る。2040年代には月面に1000人くらいの人たちが移り住んで、基地などのインフラ建設が進み、月面都市へと発展していくはずだ。その周辺で通信インフラや物流、モビリティ、さらには医療、食料、生活用品などさまざまなビジネスが発展し、いずれ地球上のすべて

の業界が宇宙産業に横展開されていくだろう。そこへ向けて大事なことは、まず時計の針を進めて、どんどん先へ先へと未来を実現することだ。さらに日本が成長市場に食い込んでいけるのも重要で、そのためにはリスクを取って挑戦しなければならない。コミュニティの目的は、宇宙産業のリーダー人材を輩出していくことだ。100人以上の個人会員、3社の法人会員から新しい事業を。そこに関する人材を生み出す。そのため場を提供し、後方支援により宇宙産業を盛り上げたい。

宇宙進出のための人工重力施設研究



鹿島 イノベーション推進室 宇宙担当 大野 琢也氏

宇宙から戻る人類のため

遠心力を利用した人工重力施設の研究をしている。月や火星に住もうとする場合、宇宙放射線や隕石の落下、温度、空気、水といった課題があるが、地球から持っていくことのできない人工重力をどうするか、学生時代からずっと考えてきた。

「月の質量は地球の100分の1で、月面の重力は地球の6分の1。すごい条件下、温度、空気、水といった課題があるが、地球から持っていくことのできない人工重力をどうするか、学生時代からずっと考えてきた。遠心力を利用した人工重力施設の研究をしている。月や火星に住もうとする場合、宇宙放射線や隕石の落下、温度、空気、水といった課題があるが、地球から持っていくことのできない人工重力をどうするか、学生時代からずっと考えてきた。

月面探査 Project YAOKI 月を走る、究極のモビリティ開発



ダイヤモンド COO 三宅 創太氏

もうすぐ大きな門が開く

50年ぶりに月の話題が盛り上がりつつある。民間企業がどうかわかっている。K1がさまざまな技術のプラットフォームとなるように取り組んでいる。月面に行くための状況は、悪路を走行しセンサーやカメラでデータを取得して地球に送る。月面探査を行う会社と

と動作するようであれば、地球においても大丈夫なはず。地球ではスケールも大きくなるので、ビジネスとして期待できる。また、若手人材の育成もさかさまにしたい。そういった考えの元、ダイヤモンドの会社のキャッチフレーズとして「未来への大きな門を開きましょう」と掲げている。今後、地球のビジネスにおいて、巨大な伸びしろが期待される市場はあまりないのではないかと、もちろん皆さん血眼になって探しているが、そろそろ宇宙を視野に入れてよいのではないだろうか。

水素・アンモニア 次世代通信 GX 宇宙 関連産業50社・団体が出展



Smart City Park from AXIA EXPOには24年6月開催予定の「AXIA EXPO 2024」の出展分野「水素・アンモニア」「次世代通信」「GX(グリーン)」「3分野と「宇宙産業」分野に取り組み50社・団体が出展。スマートシティの基盤となる技術や製品を展示した。中でも宇宙産業への期待が高まっている。宇宙探査やロケット開発など、さまざまな産業を取り込んだ世界の宇宙関連市場規模は、現在の4兆円から40年代には100兆円、300兆円まで拡大すると予測されている。こうした動きを受け、日刊工業新聞社は24年2月に国内外の宇宙関連の企業・団体とのビジネスマッチングの場として、東京・有明の東京ビッグサイト西ホールで「2024国際宇宙産業展ISIEEX」を開催予定

超モノづくりへの挑戦

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどのイベントや交流会などの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。

少子高齢化、環境対応、資源・エネルギー問題など様々な課題を乗り越え、「モノづくりの推進」をテーマに、事業を進めております。これまでの取り組みを発展・拡充させるとともに、IoTやAIを含めたロボット産業や「防災イノベーション」など、横断的テーマについては、より実践的な成果を目指します。

先進的な技術やノウハウを有する会員企業をはじめ、多彩な連携機関のご協力をいただき、モノづくり産業のさらなる発展を目指して事業を展開し、モノづくり産業の競争力強化につながるよう、地域間、企業間連携をおこない、ビジネスマッチングなども図っていきます。

モノづくり日本会議の事業

グローバル競争力強化関連事業

- ・モノづくり力徹底強化検討会
- ・人材育成関連事業
- ・長寿企業イノベーション勉強会
- ・ビジネスモデル価値創造研究会
- ・新モビリティ研究会
- ・企業価値革新検討会

新産業・ビジネス創出/ビジネスモデル構想力向上検討事業

- ・新産業技術促進検討会
- ・ロボット研究会
- ・AI研究会

その他の事業コンテンツ

- ・顕彰事業
- ・モノづくり部品大賞
- ・モノづくり推進シンポジウム
- ・特別講演会
- ・地区別研究会
- ・交流・マッチング事業
- ・会員向け調査レポート

各事業の詳細は、モノづくり日本会議ホームページ(www.cho-monodzukuri.jp)をご覧ください。

お問い合わせ先 **モノづくり日本会議**

モノづくり日本会議事務局
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14番1号(日刊工業新聞社内)
Tel.03-5644-7608 Fax.03-5644-7209